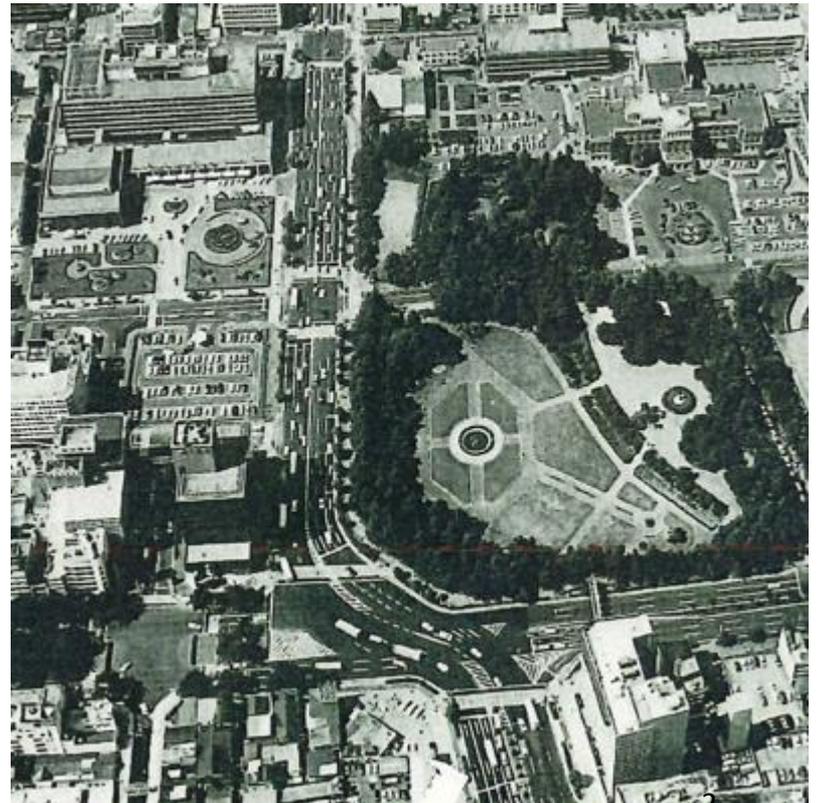


# エリアからみた低層部のあり方

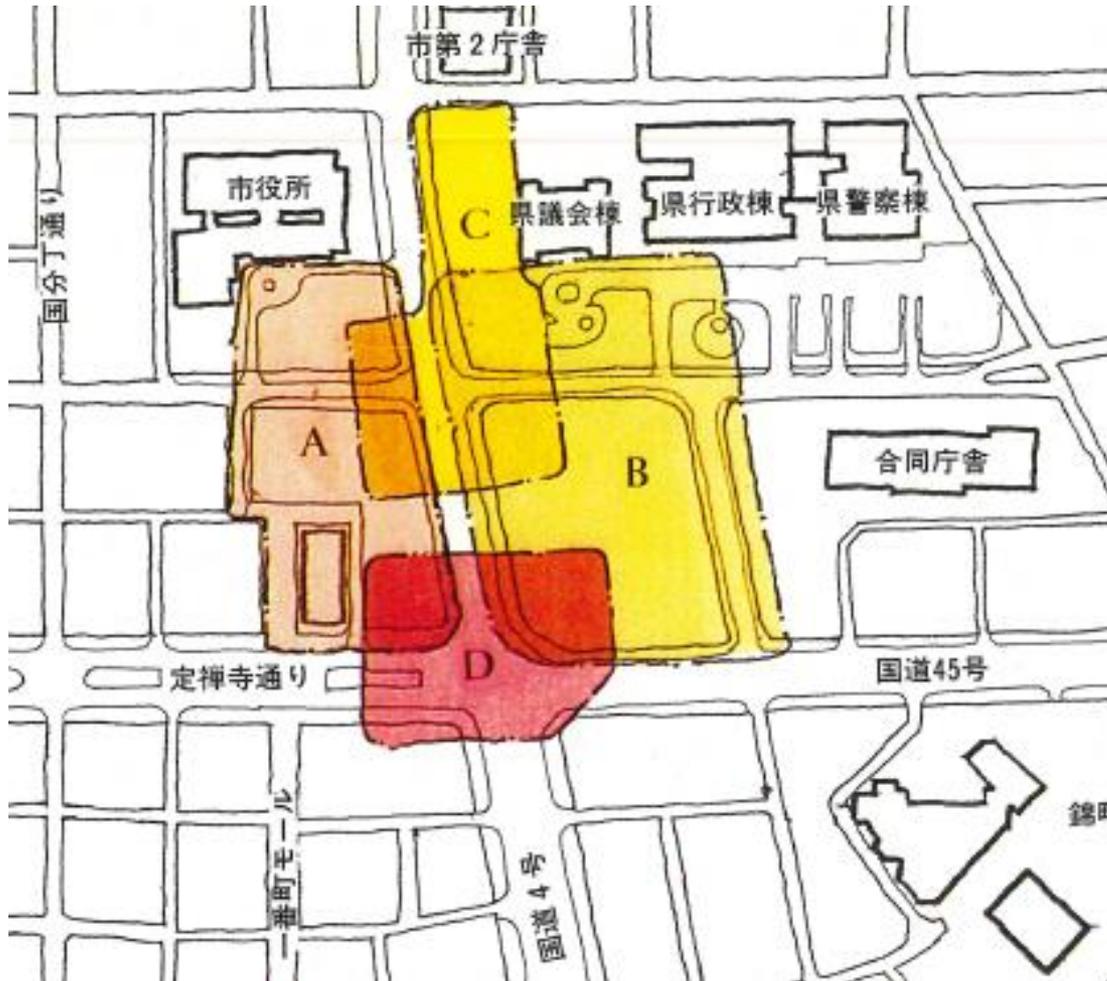
～都市に開かれた市庁舎に向けて～



# 地下鉄開業（1987年）前の 市庁舎周辺



# 勾当台公園整備計画（1983.7）



## A 市民広場

現在、市役所前庭と駐車場とに利用されていますが、ここに一番町モールを通じて都心部と勾当台地区を結びつける重要な場であるので、市民の憩いの場となるような市民広場を整備します。

市庁舎前庭と市民広場を  
一体的なエリアと位置づけ



# 勾当台公園整備計画 (1983.7)

市民広場

ここでは、昼休み時の軽い運動や、買物帰りの人たちが、緑に囲まれて、休憩し語らうことができます。また四季を通じて、お祭りやいろいろな催し物が行なわれます。

一番町通りからの軸  
(都市軸)を意識

市民広場

ここでは、昼休み時の軽い運動や、買物帰りの人たちが、緑に囲まれて、休憩し、語らうことができます。また四季を通じて、お祭りやいろいろな催し物が行なわれます。



# 歩行者動線の現況

「市民広場」と「いこいの広場」との歩行者往来はイベント時以外はほとんどない

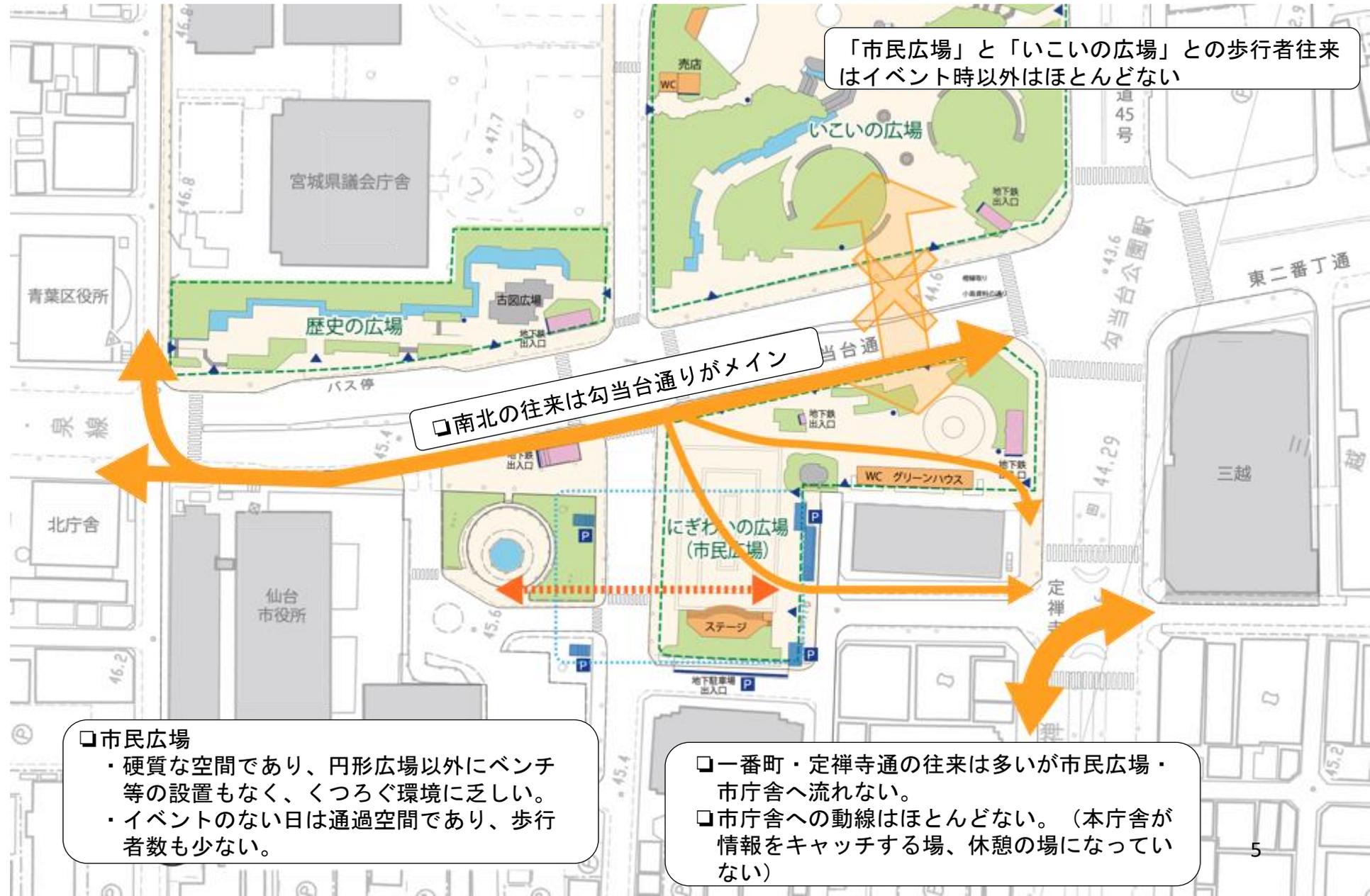
□南北の往来は勾当台通りがメイン

□市民広場

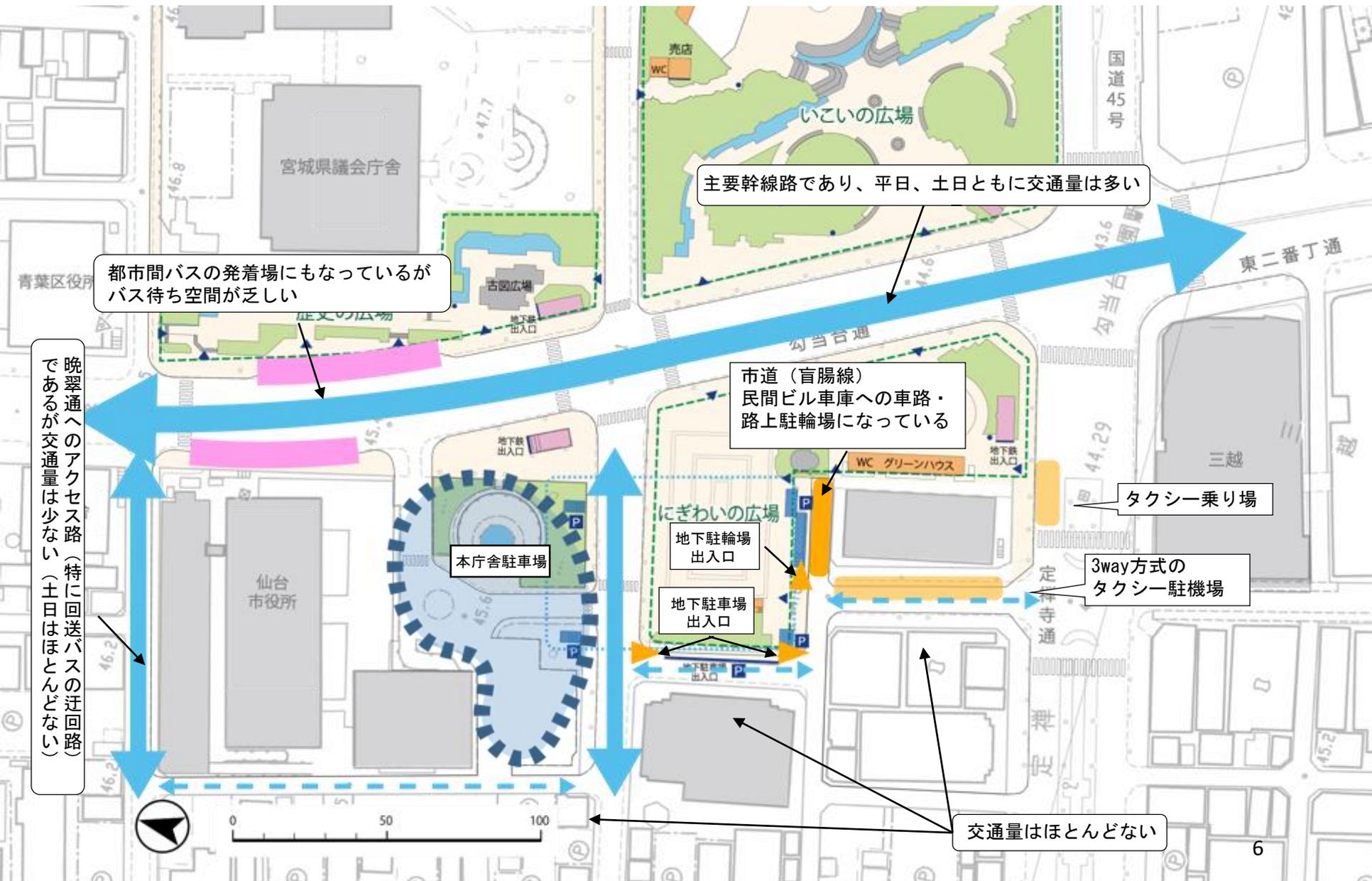
- ・硬質な空間であり、円形広場以外にベンチ等の設置もなく、くつろぐ環境に乏しい。
- ・イベントのない日は通過空間であり、歩行者数も少ない。

□一番町・定禅寺通の往来は多いが市民広場・市庁舎へ流れない。

□市庁舎への動線はほとんどない。（本庁舎が情報をキャッチする場、休憩の場になっていない）



# 自動車交通量等の現況

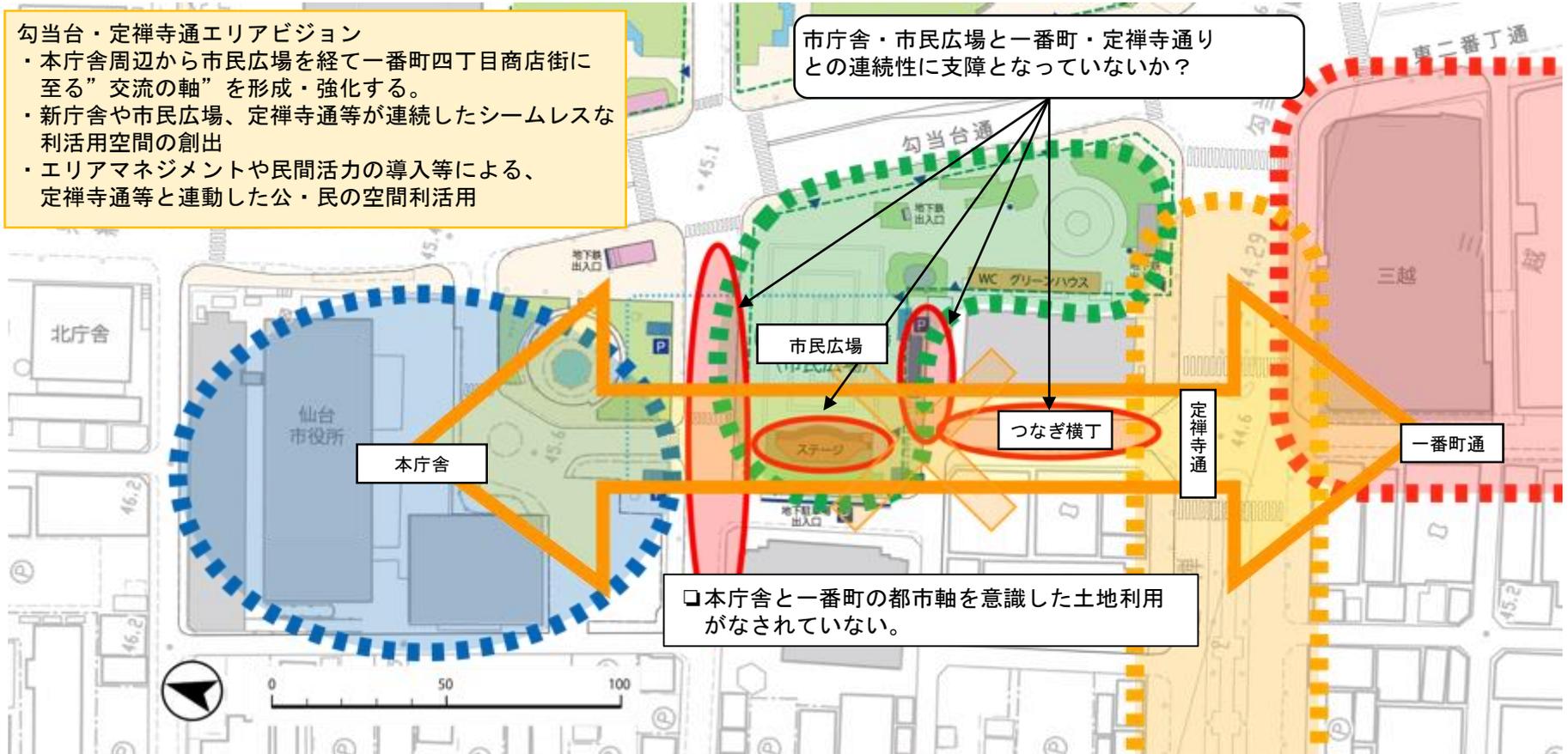


# 本庁舎・市民広場と一番町・定禅寺通の現況

## 勾当台・定禅寺通エリアビジョン

- ・本庁舎周辺から市民広場を経て一番町四丁目商店街に至る”交流の軸”を形成・強化する。
- ・新庁舎や市民広場、定禅寺通等が連続したシームレスな利活用空間の創出
- ・エリアマネジメントや民間活力の導入等による、定禅寺通等と連動した公・民の空間利活用

市庁舎・市民広場と一番町・定禅寺通りとの連続性に支障となっていないか？



□本庁舎と一番町の都市軸を意識した土地利用がなされていない。

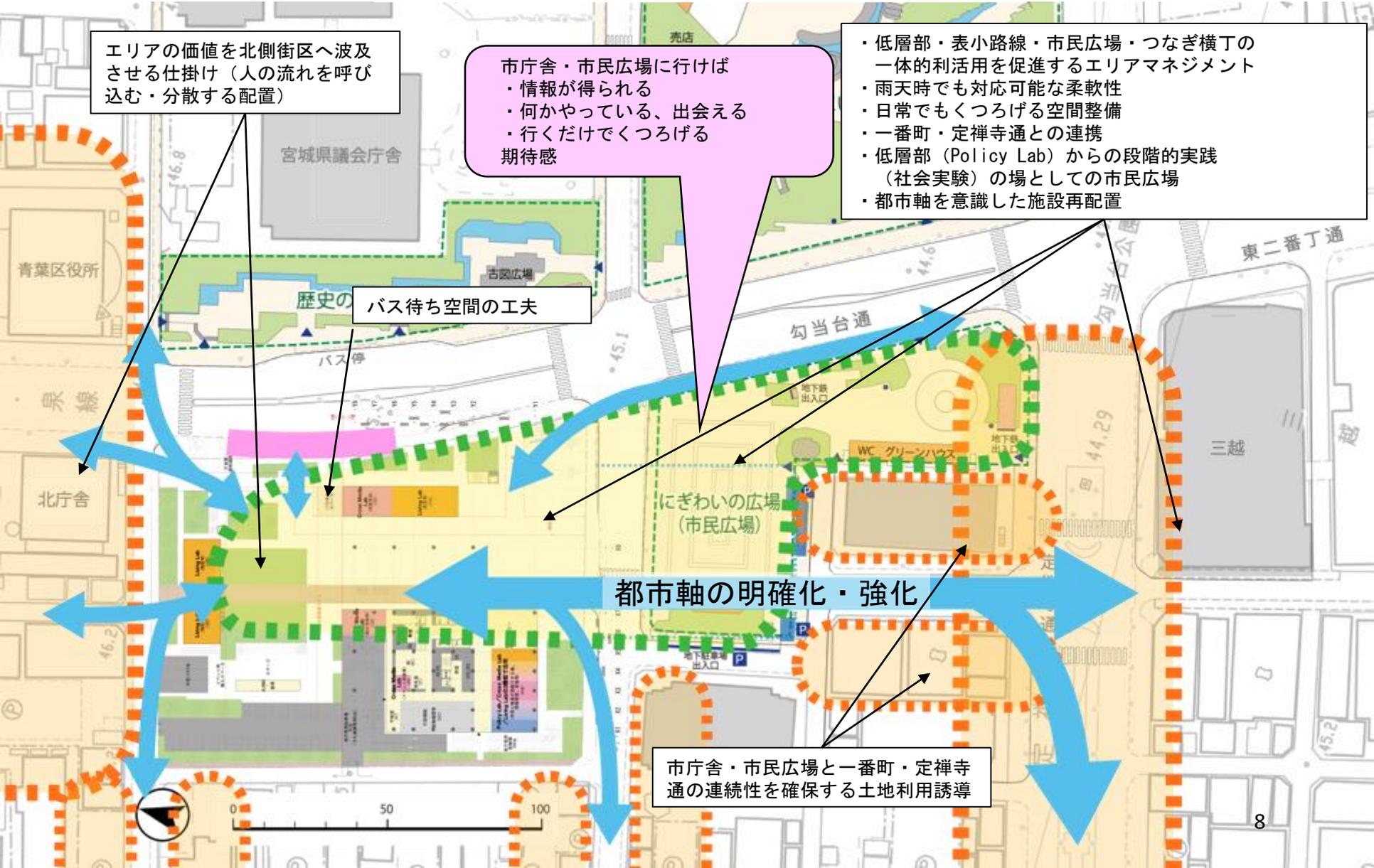
- 市庁舎と一番町・定禅寺通は2ブロック離隔
  - ・市庁舎での賑わいが一番町・定禅寺通に波及しない。
  - ・本庁舎のみでの賑わい空間は規模感が不足
- 本庁舎前庭が駐車場となっており、市民広場との一体的利用を意識していない。

- 市民広場
  - ・大規模イベント以外は、市民広場のみの展開であり、一番町・定禅寺通へ賑わいが波及してない。
  - ・広場での賑わいが「つなぎ横丁」を活かしきれてない。
  - ・市民広場での催しが散発的でブランディングされてない。
  - ・イベントに対応した設備がない。
  - ・雨天時対応のリスクをはらんでいる。

□市庁舎前庭と市民広場の所管が分かれており、一体的利用をしにくくしている。

# エリアからみた低層部のあり方

～都市に開かれた市庁舎に向けて～



エリアの価値を北側街区へ波及させる仕掛け（人の流れを呼び込む・分散する配置）

市庁舎・市民広場に行けば  
・情報が得られる  
・何かやっている、出会う  
・行くだけでくつろげる  
期待感

- ・低層部・表小路線・市民広場・つなぎ横丁の一体的利活用を促進するエリアマネジメント
- ・雨天時でも対応可能な柔軟性
- ・日常でもくつろげる空間整備
- ・一番町・定禅寺通との連携
- ・低層部（Policy Lab）からの段階的实践（社会実験）の場としての市民広場
- ・都市軸を意識した施設再配置

バス待ち空間の工夫

都市軸の明確化・強化

市庁舎・市民広場と一番町・定禅寺通の連続性を確保する土地利用誘導